

スウェーデン

イエーテボリ大学
留学に関する報告

高知大学
人文学部
国際社会コミュニケーション学科

滞在期間 2011年8月～2012年6月

○滞在期間

2011年8月～2012年6月

○滞在场所

イエーテボリ大学（スウェーデン）

○感想

1. 大学での学びについて -----

教育学部で開講されている学部レベル向けのコースを中心に履修しました。どのコースも高知大学では学べない内容だったので、毎回、興味を持ちながら授業に臨んでいました。授業で課される予習・復習の量は今までの大学生活で一番あったと振り返ります。そのうえ、授業での発言や口頭発表が納得できないことも多々あり、その度に壁にぶつかっていました。でも視点をかえてみれば、そのような体験は自分に足りない点をはっきりとわかるとてもプラスになる体験であるともいえると思います。また教育学部で授業を受けたことにより、将来、先生を目指しているヨーロッパやアメリカなどからきた学生と交流ができ、各々の志や目標について話したり、聞いたりしたことは刺激的な時間でした。日本の大学と大きく異なる点として、留学先の大学では、レポートを提出して終わりではなく、そのレポートについてクラスメイトに口頭で発表し、内容について議論をします。このように授業への理解はもちろん、極的な授業への参加がどの授業でも求められていました。大学での勉強が留学生活の中で一番大変でしたが、終わってみれば達成感に満ち溢れ、今では次のステップに向けて弾んでいます。決して、留学生活の中で、大学での勉強が一番大事なことであるとはいいませんが、僕にとっては大学での勉強が一番、自分と向き合っていた時間が長かったと振り返ります。

2. スウェーデンでの生活について -----

北欧というイメージが強く、それゆえ極寒で最初は冬の間は生きていけるのか不安でいっぱいでした。でも部屋には暖房器具も設備されており、結果的には、暖房用具などは一切買わず、何不自由なく過ごすことができました。イエーテボリ市は港町という事もあり、1年の半分以上が曇りか雨です。そのような天気からリトルロンドンとも巷では言われています。反対に天気の良い日は、お祭り騒ぎかのように市民は喜び、日光浴を楽しみます。そのような、時間を忘れ、日光浴を楽しむことができる、ゆっくりとした時間の流れが、とても好きな点でもありました。また、大学の寮に入ったことも、良い経験となったと思います。

色々な国から来た学生と食事を共にし、勉強も一緒にしたり、週末に遊びに行ったりしたことで、この留学生活がとても楽しいものになりました。毎日、友達と喋ることがとても楽しくて、それが自然と英語の上達にもつながったのではないかと思います。

交換留学がしたくて、高知大学の国際社会コミュニケーション学科に入りましたが、自分の英語力のなさに何度もあきらめようかと思いました。けれど、最後まで英語圏への留学にこだわったことで、英語を学びに留学するのではなく、英語を使って何かを勉強する、というレベルまで到達できました。自分が大学生活でやりたかったことが出来て、アドバイスを下さった先生方、色々とややこしい手続きを進めて下さった留学室の皆さま、色々な面で私のやりたいことをやらせてくれて、サポートしてくれた親に感謝しています。

3. 今後について

教育学部で勉強した中で、いくつかもう少し勉強したい分野がありました。その分野について深めたいという想いが今現在では強く、2、3年後、社会で経験を積んだ後、向こうの大学院進学を考えています。その思いを叶えるために、しばらくの間は高知で充電したいと考えています。